半田のまちの魅力発見ツアー

ケーブル TV の「CAC」、「中部電力」
木材加工の「シンホリ」を見学

半田の暮らしを支える企業や事業所の見学を通じ、個人では知ることが出来ない半田の魅力に触れるツアーに参加しました。これは半田の知人からの情報で、市民以外の参加も OK ということでしたので申しこみました。

1　気の利いた取り組み「まちひろオリジナルツアー」

これは半田市観光協会が半田市の委託事業として企画したもので、「はんだまちづくりひろば」つまり、略して「まちひろ」が運営しています。今回の参加者は１９名、まちひろスタッフ(市の職員)4 名、観光協会スタッフ２名の２５名でした。半田市の観光協会は NPO 団体なので、市の職員も別に参加しているのでしょうか。半田市でこのような取り組みが出来ることは、それだけの財政力がある証ともいえます。

東浦においてもこのような企画が欲しいものと思います。予算については今ある諸々の補助金を見直すことで、捻出はできないものでしょうか。今まであったから今年も…ということではなく、しっかり吟味していろいろな取り組みを順番に回すことも一つの方法だと思います。

その意味からも私たち東浦ふるさとガイド協会は、地域の企業・事業所の見学を増やすことで、地元の歴史文化のみならず、産業についても知る一助になればと考え、30 年度には事業所の見学を 1 か所から 3 か所に増やしていきます。

2　ケーブル TV の CAC を見学

ケーブル TV では知多メディアスを見学し、東浦ふるさとガイドの PR のため出演したことがあります。そのためおおよそのことは理解していました。現在知多半島のケーブル TV は南から知多半島ケーブルネット(常滑・武豊・南知多・美浜)、CAC(半田・阿久比・武豊の一部)、知多メディアス(大府・東海・知多・東浦)があります。そして、そのサービス範囲も地上波・BS・CS の TV 事業にとどまらず、

インターネット、電話などがあります。そのうえ中部電力とセット契約をすると、料金の割引が受けられるなどの特典を付けて、顧客の囲い込み作戦が展開されています。

何と言ってもその特徴は、地元地域のニュースをたくさん取り上げて地域密着を売りにしていることです。そのため地域の情報を取りに行くだけではなく、地域から情報を寄せてもらうようにしているそうです。おいしいレストランを見つけたとか、どこそこに

新しいレストランがオープンしたとか、イベントの開催を告知したいなど。さらにそのための出演者も募集しています。新聞もそうですが全国ニュースとは別に、地元地域のニュースが取り上げられると、だれしも関心をもって見てくれます。

ところで最初に感じたのはここの建物は階段が少しきつかったです、このあと中部電力を訪問しましたがそのことを痛感しました。というのも足が少し不自由な方が一人いて、難儀している様子でした。

屋上のアンテナ

スタジオの様子

① アンテナ、サーバーなどは安全対策で２組を準備

屋上に出ると風もなく青い空が広がり、半田の街並みを見渡すことが出来ました。バラボラアンテナがいくつも並び、普段から見ているアンテナも複数並んでいます。地上波の電波は瀬戸からのものと三重からのものを受信するように方角が決められているそうです。

このあと温度を常に２５度に保っているというサーバールームに案内されました。このサーバーとかアンテナ類は万一に備え２組がセットされているといいます。そして、この部屋の一角には大型のバッテリーが設置されていて、万一の停電に対応するようにしているそうです。さらに、敷地内にはディーゼル発電機を常備しており、台風などで予期せぬ状況になっても放送を中断することがないように備えているそうです。

② スタジオで使うカメラは 700 万円とか

最後にスタジオへ案内されて、放送手順の説明を受けしました。そして、参加者が実際のアナウンスを体験しましたが、原稿を見ながら話をするのではなく、正面のカメラの方を向くと映し出されている原稿を見ながら話ができるようになっています。なるほどこれなら安心して原稿が読めます。

そしてここで使用されているカメラの説明がありましたが、20 万円とか 40 万円の物もありますがなかには 700 万円もする機材を使用しており、そのため保険にも入っているそうです。つまり、二三年の間にはカメラを落としてしまうことも一度くらいはあるというのです。

それと何と言ってもケーブル TV は大手の民間放送さんと違い、ローコストで運営されているので少ない人数で仕事をこなさなくてはいけないのが特徴とのことでした。

3　お昼は中部電力の社員食堂で

次に中部電力さんを訪問しました。ここでは工場を見せてもらうということではなく、中部電力の概

要と半田営業所の役割について説明を受けました。中部電力が電気を供給しているのは愛知・岐阜・三重・長野・静岡(富士川以西)の中部５県です。2016 年度の発電実績は３．３１８万 kw その内訳は…

*火力合計 2.403 万 kw

LNG 火力(6 か所)	1.716 万 kw	…	川越火力発電所、(LNG の備蓄は 2 週間程度)
石油火力(2 か所)	277 万 kw		
石炭火力(1 か所)	410 万 kw	…	碧南火力発電所
*原子力(1 か所)	362 万 kw		
*水力(196 箇所)	550 万 kw		
*新ネルギー(4 か所)	4 万 kw		

近くにある武豊火力発電所は、1966 年に石油火力発電所として運転を開始し、40 年余りにわたり発電を行ってきました。現在、既存設備の撤去を完了し、木質バイオマス発電所とする工事を進めています。

① 半田営業所の役割と担当エリア

中部電力さんでは事業環境の変化に迅速且つスピーディーに対応していくため、事業分野ごとにカンパニー制(発電カンパニー・電力ネットワークカンパニー・販売カンパニー)を導入しています。

担当するのは知多半島全域で、114、000 世帯・280、000 人。もちろん篠島と日間賀島も含まれており、ここへは海底ケーブルが敷設されています。このケーブルの耐用年数は 30 年だそうです。

このほかには春になるとカラスなどが電柱に巣を作り、停電するトラブルが発生するため巣を見つけたら電柱番号でお知らせいただきたいとか、電気の有効利用のためスマートメーターの取り付けを進めていることなど説明を受けました。

② お昼は社食のランチをいただく

今回のツアーでお昼は中電さんの社食をいただきました。人数も多いのでみなランチをいただきましたが落ち着いた食堂で雰囲気も良かったです。ランチは鶏肉にタルタルソース?をかけたものと、大根・人参を細切りにした酢のもの?とみそ汁でなかなか良いお味でした。これで 500 円でした、他には麺類の定食とカレーライスがあるようでした。食後のコーヒーが欲しかったのですが、コーヒーの自販機を目の前にして、時間がなくて飲めなかったのが心残りでした。

こうした市内の事業所を巡るツアーの昼食に、事業所のランチをいただくのも良いアイディアと思いました。

4　木材加工の「シンホリ」を見学

最後は亀崎のシンホリさんで、玄関前に到着するとスーツ姿の方や事務服の女性たち大勢が並んで出迎えてくれたのにはびっくり。場所は昔の貯木場があった辺りで大通りから中へ入っているので、普段は目にすることはありません。創業は昭和 32 年従業員数 145 名、本社半田工場と武豊工場・岡崎支店があります。事業内容は①プレカット事業②セルロースフアィバー事業③防蟻事業④木製サッシ事業をメインに、工務店の支援や亀崎モデルハウスも運営しています。

はじめに社長のあいさつがあり、先ほど見学した CAC が作成したという DVD で、会社の生い立ちから現在の事業内容までの説明を受けました。そのあと一人ひとりがレシーバーを着けて作業現場を案内してもらいました。かなりの騒音ですがレシーバーのおかげで説明はよく聞き取れました。見学した内

容を私なりの理解に基づき整理してみますと…

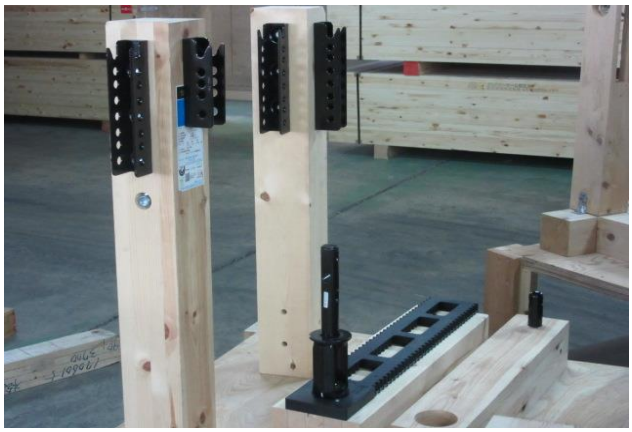
① プレカット事業

木造家屋の建設は「在来軸組工法」と「金物工法」が普通です、それに対しシンホリではこの二つの利点を併せ持ったAPS工法というものを推奨し、その加工を得意としています。この工法は従来ですとボルトやナットを使用すると、それが木材からはみでていました。それに対しアップルピンというものを使い、はみ出した突起もなくきれいな仕上がりとなります。それにより従来の工法に比べ断面欠損が少ないため、木材の接合部の強度低下を防ぎ、木の持つ本来の力を活かすことが出来るといいます。それだけではなく、突起物もなく荷造りがしやすく在来工法と同等の輸送コストで済むといいます。

*軸組工法…木材の先端に雄雌の形状を加工して組み合わせる

*金物工法…木材の接合に鉄板(雄側)を使い、雌側の木材にはスリットを入れて組み合わせる

軸組工法の加工



金物工法の加工

*APS工法…上記二つの工法を組み合わせたことになりますが、上右の写真と少し違って薄い鉄板を差し込むのではなく、先端がスクリューになったアップルピンを入れて、このスクリュー部にピンが入り込むことで締め付けが緩まない構造になっています。

いずれの工法にしろ、このように加工を工場で行い、現場では少しの調整だけで家を建てます。この工場加工をする割合が70%を占めるそうです。そして、これらの加工はすべて全自動のマシンにより行われており、加工データーがコンピューターに送られ、一方使用する材料はリフトマンにデーターが渡ります。したがって見ていても何をどうしているのかさっぱり分かりません。オペレーターは指定された材料がセットされていることさえ確認すれば、スイッチONするだけです。

広い工場内には木材が大きな台車にたくさん載っていて、リフトマンは指定された木材を搬出するには台車を移動させてすくい上げます。これによりどの位置にある木材でもすくい上げることが出来ます。

ここまでは軸組工法の加工工程で、こちらが主力のようです。金物工法の工場も同じように全自動で加工する仕組みになっています。

② 世界一の高断熱4層ガラス木製窓など

いただいたパンフレットを見ると見出しのような木

製窓も製作しています。いまはアルミサッシがほとんどですが、木製サッシが自然素材住宅の美しさをより一層引き立てます。これはペアガラスを二組組み合わせたもので、断熱性、耐久性、防犯性、防音性と木の持つ特性から建物のイメージを和らげます。そして、メンテナンスをきちんとすれば 50 年持つといいます。

左は 1 台ですべての加工をこなすマシン。刃具も自分で取り換えて必要な加工を行います。

③ 家を守り住みよくする

他には人体に無害なホウ酸処理で白蟻対策をしたり、新聞紙をリサイクルしたセルロースファイバーで断熱・遮音と調湿にも努力しています。さらに、こうした方法で作った家「亀崎の家」という宿泊可能な体験型モデルハウスを JR 亀崎駅前に建てています。大企業ではなく地元の小さな企業が、このように頑張っていることは頼もしい限りです。

今回のまちひろオリジナルツアーのような見学会がなければ、地元で頑張っている企業のこともわかりません。とても素晴らしい企画であったと思います、東浦においても全く同じでなくともよいのでこのような企画をお願いしたいものです。